

令和 2(2020)年度第 1 回
八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録

開催日時	令和 2(2020)年 9 月 28 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時
開催場所	大田原市役所 南別館 2 階会議室 1
出席者	<p>【委員 14 名】</p> <p>【大田原】小林会長、玉木副会長、白石委員、磯委員、吉原委員、佐藤委員</p> <p>【那須塩原】村山委員、【那須】鈴木委員、</p> <p>【那珂川】矢内委員、薄井委員、【棚倉】大野委員、</p> <p>【矢祭】古市委員、【大子】大藤委員、石井委員</p> <p>【欠席委員 9 名】</p> <p>【オブザーバー（連携市町の担当者） 5 名】</p> <p>【オブザーバー（大田原市各部長） 5 名】</p> <p>【事務局 5 名】</p>

1 開会

2 挨拶 津久井富夫大田原市長

○要旨

- ・八溝山周辺地域定住自立圏は、栃木福島茨城の三県のそれぞれ県都から離れた県際地域の皆さんが、自分たちの地域に定住していくためには何が必要かということ、ともに問題意識を持ちながら、一つ一つ解決していこうということで、三県にまたがる 8 つの自治体が共同して発足したものである。
- ・第 2 次共生ビジョンも 2 年目を迎え、その間に特に、災害時の支援、スポーツや文化の交流、地域医療の充実ということでドクターヘリの導入要望活動等に取り組んできた。ドクターヘリについては、栃木県の検討結果として、隣県との相互応援の範囲を半径 50km 圏から 70km 圏に拡大することによって問題は解決しますといった簡単な回答をいただいていたが、やはり狭隘な道路、遠隔地、山間地域を抱えている我々としては、ドクターヘリがあっても、この地域の中で安心して住み続けることが出来る地域医療の要とされているため、今後とも展開を広げていきたいと考えている。
- ・昨年末から今年にかけて、新型コロナウイルス感染症の影響により、共生ビジョンに掲げた数々の事業が中止となっていることも今年の特筆すべき事項と言えるが、2 年目となる第 2 次共生ビジョンの記載には、大きな変更はない見込みである。変更案に対して懇談会から意見をいただき、その意見を踏まえて連携市町と協議を行い、10月26日の八溝山周辺地域定住自立圏推

進協議会での承認を経て最終的に共生ビジョンが変更となる予定である。

・新型コロナウイルス感染症の影響により、現時点では実施予定の事業も、状況次第では今後中止となる可能性もある。また、実施の場合にも、感染防止の観点から実施方法の見直しを迫られている。一方、企業等によるテレワークの導入が促進された結果、首都圏から地方への移住を目指す動きが出てくるなど、圏域にとってはプラスとなりうる部分もあろうと考えている。そういったところで、時代の流れを先取りしながら、「地域に住んでこそ、人間らしい生き方ができるんだ」ということを発信できるような共生ビジョンが作られれば非常にありがたいことだと思っている。より良い地域づくりのために、委員の皆様には忌憚のないご意見を頂きながら進めていけたらと思う。

3 会長及び副会長の選出

委員互選により、会長に小林雅彦委員、副会長に玉木茂委員が選出された。

会長挨拶

○要旨

・国際医療福祉大学では9月24日から後期の授業が始まり、オンライン授業でなく全面登校となっている。窓を全部開け、扇風機で換気をし、食堂にもパーティションを設置し、徹底して人と人の距離をとる対策をしている。それでも、学生の中に症状が出ていない感染者がいるかもしれない、完全に感染を防ぐことはできないが、クラスターの発生は防止したいと考えて取り組んでいる。そういった中で、こういった会議も久しぶりである。距離を取りつつも、顔を見ながら議論をした方が一体的でよりよい議論ができると思うので、皆さんの協力をよろしくお願いしたい。

4 内容

(1) 令和2(2020)年度八溝山周辺地域定住自立圏連携事業について

○説明要旨

(資料について)

・配布資料1ページから2ページに「資料1」として令和2年度の連携事業の各市町予算措置状況を一覧とした表が記載してあります。青色の色塗りをしてある事業が、連携市町から負担金をいただいて実施している事業です。3ページは「資料2」として、今年度の事業のうち会議やイベント等を一覧にして進捗状況をまとめてあります。

(負担金事業など主な事業の実施内容について：資料1)

・「健康増進事業」は、大田原市の単独の予算で実施していました「ウォーキング推進事業」が、平成30年度までで終了したことから、新たな事業内容を部会内

で検討し、令和 2 年度より新たに「健康セミナー」を連携市町から負担金をいただいで実施することとしました。今年度は、100 万円の事業費を予算に計上していますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点よりセミナーを開催しないこととなりました。

- ・「広域観光推進事業」は、各市町の地域資源、特産品等の観光資源を活用した情報発信等を行う事業で、200 万円の事業費が計上されています。過去には、旅行雑誌への広告記事掲載やフォトコンテストの開催、とちぎテレビとのタイアップ番組の作成等に取り組んできました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を念頭に、どういった取り組みをすべきか検討を進めています。
- ・「圏域内特産品販路拡大事業」は平成 29・30 年度に実施したスタンプラリーが好評だったため、令和元年度も引き続き「八溝山周辺道の駅等を巡るスタンプラリー」を開催しました。施設への来場だけでなく、施設内での買い物等を達成条件とした賞を設定する等の見直しを加えて実施しました。今年度も 200 万円の事業費を計上しておりますので、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めながら実施できる事業を検討しているところです。
- ・「防災研修会等実施事業」は、昨年度は「災害対応における市民の役割と行政の役割」と題した講演会を棚倉町、大田原市で開催し、それぞれ 153 人、310 人の聴講者がありました。今年度につきましても、25 万円の事業費を計上し、同様に実施を予定しています。
- ・「ポータルサイト構築・運営事業」は、平成 27 年に構築した、構成市町の観光情報、イベント情報などを発信するポータルサイトの維持、運営に係る経費として 50 万円を計上しています。昨年度は、平成 30 年度に負担金事業として作成した「広域サイクルマップ」の掲載ページへのリンクバナーの設置、また同様に負担金事業として実施した「八溝フォトコン」の審査結果発表ページを作成し掲載したほか、スタンプラリー・婚活イベント情報を開催に合わせて掲載しました。
- ・「結婚促進対策事業」は、圏域内の市町を会場にした出会いのイベントを開催するため、200 万円の事業費を計上しています。昨年度は、婚活パーティーを大子町と大田原市を会場にそれぞれ 1 回ずつ開催し、延べ男性 31 名、女性 27 名の参加があり、9 組のカップルが成立しました。それらに加え、初めての試みとして「独身の子を持つ親御様のための婚活セミナー&座談会」を那須町のホテルにて開催し、25 名の参加をいただきました。今年度は、これまでの効果検証を踏まえ、より効果的な内容での事業実施を検討してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催が困難な状況と判断し、中止を決定しました。

- ・「スポーツイベント等実施事業」のうち、「野球教室」は、小学生・中学生を対象とした野球教室を開催するため、100万円の事業費を計上しています。昨年度は、東京ヤクルトスワローズの真中満元監督による小学5・6年生を対象とした野球教室を開催し、参加者は49名でした。今年度も同様に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止を決定しました。
- ・「ソフトボール教室」は、50万円の事業費を計上しています。昨年度はHONDA女子ソフトボール部による小中学生を対象とした教室を開催し、3市町から247名の参加がありました。本年度も同様に開催したいと考えています。なお、矢祭町様、埴町様、大子町様は小中学生のチームがないとのことですので、部会の検討を踏まえ、負担金をいただかず、その分は大田原市が負担することとしています。
- ・「剣道教室」は30万円の事業費を計上しています。平成29・30年度には平成28年度の全日本選手権優勝者を講師に招き、多くの連携市町からの参加がありました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から中止となりましたが、今年度はまた改めて開催したいと考えています。
- ・「ミニバスケットボール大会」は、事業費として20万円を計上しています。昨年度は那珂川町総合体育館及び大田原市黒羽体育館で開催し、186名の参加がありました。参加するだけの教室スタイルではなく、圏域内の交流が図れる事業内容で、参加者からも大変好評でしたので、本年度も開催したいと考えています。
- ・「硬式テニス交流大会」は、成人男女を対象とした大会の開催経費として30万円の事業費を計上しています。昨年度初めての開催でしたが、4市町から34名の参加がありました。成人を対象としたスポーツイベントはこの大会のみですので、今年度についても開催を予定しています。
- ・「職員研修実施事業」のうち「職責や年代別の職員研修会」は、50万円の事業費を計上しています。昨年度は、棚倉町の「ルネサンス棚倉」を会場に、「若手職員研修会」を開催しました。各市町から24名の参加があり、「AI・人工知能」等に関する研修や、本定住自立圏の共生ビジョンの愛称を考えるグループワークを行いました。ここでいただいた共生ビジョン愛称案等については、資料の4ページのとおりです。今年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況等をみつつ、研修対象者や講師、テーマなどはアンケートにより決めたいと考えています。

(令和2年度のイベント等について：資料2)

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から既に中止・延期となった

イベントもあり、また、それ以外にも多くのイベント等が、新型コロナウイルス感染症の影響により内容や時期について見直しを迫られている状況であり、今後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況等によってはさらに多くのイベント等が中止となる可能性もあります。そのような状況ではありますが、今後新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が弱まった場合には、また改めて事業が迅速に実施できるように準備をし、また、影響が依然として弱まらない場合であっても、その中でどんな取り組みができるのかを検討していくなど、八溝山周辺地域定住自立圏の結びつきを維持し、より強めていけるよう取り組んでいきたいと考えています。

○質疑・意見交換

会 長 既に取り組んでいる事業の実際の進捗状況について説明があった。新型コロナウイルスの関係で、実施が難しい事業が多くあるという状況であるが、質問、ご意見等あればお願いしたい。

まず、「結婚促進対策事業」の説明で、カップル成立が9組とあったが、カップルの定義はなにか。ゴールインした数なのか、付き合い始めた数ということか。

事務局 開催したイベントの中でのマッチング数です。

会 長 途中経過報告は義務付けてはいないのか。ゴールインした場合の報告はあるかと思うが、そういった、効果測定というか、アフタフォローはしていないのか。

事務局 かねてよりイベント後のフォローをしてはどうかというご提案をいただいているところではございますが、プライバシー性の強い事項であるために、実施されていない状況です。

会 長 新型コロナウイルスの影響によってイベント等が中止になっているとのことだが、中止とせず、従来と形を変えて実施したような事業はないのか。例えばオンライン開催など。

事務局 資料2の5番「広域無料法律相談」については、従来は対面方式で実施していましたが、電話での相談方式に切り替えていた時期がありました。他には、同じく7番「地方自治情報化推進フェア視察」について、従来は連携市町職員を集めてバスで視察を実施していましたが、今年度はフェア自体がオンラインでの開催となったことにより、各市町においてオンラインでの参加という形になる見込みです。また、同じく21番「八溝山を巡る文化財」は今年度初めての取組で、各市町で会期を決めて巡

回する展示会ですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時期と重なった市町については開催を延期したものの、その他の市町については予定どおり展示をするという形で、事業を中止せずに実施をしている例となっています。

委員 共生ビジョンの 55 ページ「スポーツイベントの開催」の中に、「圏域内サイクリングマップの作成に関する事業」とあるが、サイクルツーリズムの観点から、「スポーツイベント」というよりも、同じく 38 ページの「特産品の販路拡大」の中の「道の駅合同物産展の開催」や 37 ページの「広域観光の推進」と関連させて取り組むことを希望する。

栃木県はサイクルツーリズム先進県である。また、FIT サイクリングコースというものもあり、福島県の石川町から福島空港、また棚倉町、塙町、矢祭町とかなり活発な活動をされている。茨城県もやっと今年それらに追いついてきた。茨城県の事業として、200 万円強の事業費で広域レンタサイクル事業を県庁所在地である水戸市から大子町にかけての道路で展開することになった。E バイクやクロスバイク、ロードバイクやキッズバイクの貸し出しをする。こういったものと絡めて、先ほどのスタンプラリーの自転車版を作ってもらえないかと希望している。スタンプラリーは私自身も 2 回ほど全部回ってみたが、自動車でも 1 日では厳しいコースであったが、複数日に分けて回るのであれば余裕もできると思う。スタンプもかなりユニークなものもあるので、ぜひ検討していただきたい。

会長 次期の事業を検討するうえで、ぜひ参考にさせていただきたい。

委員 結婚促進対策事業について、9 組成婚というのは大成功だ。各市町で結婚相談事業をしているが、なかなか成果が出ないなか、大成功している。担当者は苦勞されていると思うが、その苦勞が報われていると思う。非常に有意義な、有効な取組である。誰かがほめてあげなければと思う。大変すばらしい成果である。

会長 事業の細かい指摘より、素晴らしい取組を評価することの方が担当者のやる気につながる側面もあると思うので、そういったご意見もいただければと思う。

副会長 9 組というのは成婚数ではなく、カップルになった数。カップルになるところから、入籍までには高いハードルがある。とはいえ、そうだとってもいい成果と言える。

(2) 八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョンの変更について

○説明要旨

(共生ビジョンの変更点について)

・配布した共生ビジョン変更案については、変更箇所を赤字で記載してあります。誤字脱字等の修正を除いた今回の変更点は、先ほど資料 1 でお示しした各事業の令和 2 年度事業費について記載をしたことと、本日の会議を含めた、定住自立圏の会議日程等を記載したことの 2 点です。具体的には、共生ビジョン 26 頁からの「定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組」について、27 頁から 61 頁に各事業の事業概要と事業費を記載していますので、それぞれ「事業見込額」の令和 2 年欄に本年度の事業費の計を記載しました。2 点目については、共生ビジョン 65 頁で、「共生ビジョン策定の主な経緯」の最後に本年度の会議及び共生ビジョン変更の予定について追記いたします。共生ビジョンは、この後、懇談会委員の皆様からのご意見等をお伺いしたうえで、所定の見直しを行い、10 月 26 日に開催する推進協議会において決定します。

○質疑・意見交換

会 長 | 数字や会議予定を加えたのみの変更ということで、この後 10 月に首長の会議で決定するということである。

改めて、議題 (1) に関することも含め、新たにこういった事業に取り組めないかとか、既存の事業のやり方を変えられないかといったご意見があれば、この場で何か決められるものではないが、アイデアとして出して頂ければと思うので、何かご提案等あればお願いしたい。

新型コロナウイルスの影響でしきりにリモートワークと言われるようになった。実際に統計上どの程度増えているかはわからないが、例えば那須町に居を構えてそこからリモートワークするような話がたまにニュースで出たりしている。簡単な話ではなく、また市町単体でももちろんいいが、この地域をリモートワークのしやすさでアピールするとか、そういった視点もあるのではないか。新型コロナウイルスの影響は、今年限りということは多分なく、かなり基本的な構造転換につながるような、長期的な影響が生じるのではないかと思う。それをある意味逆手に取るというか、そういったことが都会ではなくこの地域でならできないのではないか。新型コロナウイルスに関連した議論とか、来年度に目玉として打ち出す取組とか、なにか考えがあれば聞きたい。

事務局 | 新型コロナウイルスの影響により都会から地方への人の流れが出てく

るであろうという考えから、大田原市としては、そういった人の流れを受け入れできるような施策を組み立てられないかといった議論が内部で始まっているところです。例えば空き家を活用した住居をどのように用意していくかとか、まだ政策として具体化はされていませんが、どういう風に取り組んでいくかという検討を進めなくてはいけないと考えています。

会 長 市町の考えがそれぞれあり、そのすり合わせもない中で、定住自立圏としてこの場で議論というのは難しいと思うが、もしかすると、まとまった方が売り込みがしやすい、地域イメージが作りやすいといった面もあるのではないかと思う。

委 員 「広域観光推進事業」に関して、「やな」は地域資源にあたると思うが、今年、那須町から茂木まで栃木県を縦断している那珂川において、本格的な大きな「やな」全部廃止・休止になっている。先日テレビで那須町の「やな」が取り上げられていて、それは那珂川の本流ではなく支流であるが、あれが県内では唯一だと思う。「やな」を新しい人が始めることを栃木県は認めないらしく、廃止となる「やな」が譲渡されないともうできないらしい。そこで、福島県や茨城県の状況、久慈川ではどうなっているかを伺いたい。これは地域資源としては大きな問題であると思う。共生ビジョンには川の観光についての記載がないが、最近川遊びが見直されている。「やな」は今まで大きな役割を果たしてきたところだが、今年一気に全部休んでいるわけで、それぞれの首長が観光担当と連携して真剣に現状を捉え、検討し、今までとは違う視点から見てこれをなんとかしないといけないのではと危惧している。

委 員 茨城県内唯一の「やな」を所有している。昨年の台風 19 号で壊滅的な被害を受けた。開設から 30 年経っていることもあり、いよいよトイレ等も含めすべての施設を改めようということになったが、取り壊しだけでも約 3 千万円かかる。今年の 12 月の議会で許しをもらって取り掛かるが、新型コロナウイルスの影響がなければもっと早く始まりたかった。来年 6 月のアユ解禁までには施設が出来上がる予定である。届出上は休止となっている。

ちなみに全国の「やな」の状況としては、「観光やな」と言われるところは全国に 70 か所程度あり、1 河川に 1 つの「やな」というのが今の許可のスタイルになっている。

委 員 矢祭にもかつてはあったが、個人のは消滅している。国費をもらって整備したのも、大子町を同様に台風の被害を受け、現在は廃止となっている。

- 会 長 確かに「やな」はこの地域らしさがあって良い。東京から知り合いが来るとよく「やな」に連れていっていた。改めて考えると、「やな」をうまく活かすのは、十分に地域性のある取り組みだと思う。大田原市としては、そういった振興だとか、台風被害についてなにか「やな」について話題はあるか。
- 事務局 大田原市の「黒羽観光やな」も去年の台風 19 号によって流されてしまいましたが、河川敷にあった休憩施設については、運営している漁業協同組合が改修し、今年 5 月にオープンできる状態に戻しています。新型コロナウイルスの影響で営業するかどうか揺れていましたが、現在のところ営業はしています。「やな」自体の設置の状況は確認していませんが、休憩施設による飲食の提供はなされている状況です。来年以降も同様に営業ができるものと見込んでいます。
- 会 長 実際に「やな」を見ながら、そのそばで焼いて食べるというのが、東京あたりから来た人には非常に喜んでもらえる。
- 委 員 「やな」の設置は許認可制で、大きさによるが許可申請に 100 万円や 200 万円かかる。さらに、建設するのに 2,000 万円から 3,000 万円かかる。せっかく建設しても、獲物である鮎がかからないうちにまた台風で流されてしまい、もうみんな資金繰りが出来ずにお手上げになってしまう。「黒羽観光やな」のように、多少公的な性質のものであっても、とりあえず休憩施設は直しても、来年実際に川に「やな」を架けるかどうか。資金繰りの問題が大きいのが現状のようだ。
- 会 長 「やな」がこの地域らしさというか、この地域の売りにできるような何か、例えば特別に補助制度を作るなどしてできれば非常にいい話だと思うので、首長の会議の場でも、この話題について取り上げていただきたい。
- 委 員 「やな」の許認可について。「やな」を架ける際に、魚を捕るための細工をしないで、見せるだけのものということを経営にすると、数十万円ですむ。捕獲施設としてだと大きな金額になってしまう。
- 委 員 以前にテレビで大田原市の鳥害について見たが、棚倉町においてもあつ場所には鳥が集まっています心配な箇所が数か所できています。大田原市では現在何か特別な対策をとっているとか、そういった状況について伺いたい。
- 事務局 市内に「サギ」が大量に営巣している箇所があり、数年前から問題になっています。機器を購入しての対策等してはいるものの、なかなかうまくいっていないのが現状です。定住自立圏の構成市町間で情報交換し、共同で対策がとれるのか、いい案があるのか検討していく価値があると

思います。

委員 那珂川町の「カタクリ山公園」ではカタクリの花が3月末から4月に見ごろを迎える。また、「岩うちわ」の花も同じころに見ごろを迎え、そのころになると福島県や茨城県から見学に訪れる人が多くいる。これらの人々を那珂川町だけにとどめてはもったいないので、各地で同時期に見頃を迎えるものを巡回してもらえないか。ラリーのような何か取組で出来たらと思う。今年は新型コロナウイルスの影響で2,000人程度の来場者数だったが、例年は4,000人程度の来場があり、「カタクリ山公園」では駐車料金を、「岩うちわ」は入山料を徴収している。この収入によって、里山の整備を行うことができるし、地元が潤う側面もある。

会長 共同で考えやすいテーマだと思う。「花めぐりツアー」であったり「マップ」を作ったりなどいった取り組みで、来た人をもう一歩先まで連れていくような流れを作ることが出来れば。これはある意味アイデア勝負のようなもので、お金をかけるというよりも情報の出し方、発信の仕方であろうと思うので、よろしく検討をお願いしたい。

(3) 八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョンの愛称について

○説明要旨

(共生ビジョンの愛称案について)

- ・平成30年度の懇談会において「八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョンに愛称をつけてはどうか」というご提案を頂きましたので、令和元年度の「職員研修実施事業」において、各市町若手職員によるワークショップを行い、愛称の検討を行いました。その結果を資料3にまとめましたので、ご意見・ご感想をいただきたいと思えます。いただいたご意見・ご感想を参考に、今後幹事会・連絡調整会議で検討を進め、推進協議会において愛称を決定したいと考えています。

○質疑・意見交換

会長 ビジョンそのものの愛称というよりは、名称の下に添えられるキャッチコピーのようなニュアンスも含めての共生ビジョンの愛称案ということで、「もっといいものを思いついた」というプレゼンでも、あるいは「こういう言葉にこだわったほうがいい」というような提案でも結構なので、感想等あればお願いしたい。

委員 5グループで2案ずつということだが、資料3の並び順はグループごとか。1番目と2番目、3番目と4番目がそれぞれ一つのグループからの案ということではないか。

事務局 上から2つずつが同一のグループからの提案です。

委員 愛称としては、1番目か2番目が分かりやすくいいと思うが、他の案も苦労して考えたものだと思うと簡単にこれがいいとも言いづらい面もある。ただ、お笑い芸人の名前をもじったようなものは、冷やかしになってしまうので選ばない方がいいと思う。

委員 愛称ということであると、わかりやすいものをというイメージがあるが、あえてちょっと考えるようなものを選ぶことも考えていいのではないか。その意味では、この中から選ぶとすれば6番目のものが「3県8市町」という意味が込められていて、みんなが「ああそういうことか、3つの県の8つの市長で取り組んでいるんだ」と後からのインパクトが出てくるのではないか。

委員 分からないことでかえって話題になるかもしれない。

副会長 「八溝」という名前がメジャーな名前じゃないので、いかにして覚えてもらうかが重要だと思う。そういう意味で、この中では5番目の「やみぞん」を「やみぞーん」を伸ばしてみると悪くないのではないか。子どもでも覚えやすいと思う。

会長 共生ビジョンの愛称なので、例えば「やみぞーんプラン」というような形にするのはどうか。そういう形でもいいのか。

事務局 はい。

会長 他のみなさんは、特にどれも悪くはないけど、特にこれが印象に残るというものでもないということか。

(4) 意見交換

会長 市長挨拶の中で、「ドクターヘリが50km圏を70km圏にすれば問題が解決する」とあったが、どういったことか詳しく説明をお願いしたい。

事務局 八溝山周辺地域定住自立圏のドクターヘリ導入要望活動は、平成30年の4月に三県の知事に要望書を提出して以来継続しています。昨年、栃木県・福島県・茨城県の医療政策担当者の協議が行われた際に、2機目のドクターヘリの導入は、経費の問題もあり、現状ではそういった方向

には検討が進んでいない、ただし、現在ドクターヘリの各県の相互運航において基地病院からおよそ片道 50km 圏としている運航範囲を、70km 圏まで拡大した場合には、空白地帯もかなり少なくなるため、そういった方向で検討していきたいという協議結果でありました。それに対して、八溝山周辺地域定住自立圏としては、運航範囲が 70km に広がれば、それだけ病院までの到達時間が長くなるということであるので、それは要望の本筋とは違うということ、継続して 2 機目の導入に向けた要望活動を続けていきたいと考えています。

副会長 2 機目のドクターヘリ導入については、栃木県商工会議所連合会における栃木県への要望事項に毎年盛り込んでいる。福田栃木県知事によると、「趣旨はよくわかるものの、福島県、茨城県はほとんどその気になっていない」ということであった。50km 圏を 70km 圏にということであるが、ヘリが 15 分で到達できる距離が 50km であり、70km 圏にすればいいというのは、到達まで 20 分かかっても 25 分かかってもいいという意味である。そんな話はないだろうということで、白河商工会議所に説明し、福島県に対して去年の 12 月に要望を出して頂いた。また、大子町にもお願いして、茨城県にも要望活動をしていただいている。決して福島県、茨城県で要望の動きが盛り上がってないということではない。むしろその両県が現場の状況に暗いのではないかと思う。もちろん、費用が発生することであり、福島県、茨城県に応分の負担をしていただかないことには、栃木県だけではできないということである。そういった趣旨を踏まえながら、継続要望事項ということで取り組んでいるところである。

委 員 委員の中にドクターが 2 名いらっしゃるので、せっかくの機会なので、新型コロナウイルス等について、我々の見識を高めるためにも少しお話を伺えたらありがたい。

委 員 (要旨)

○ドクターヘリについて

福島県・茨城県のドクターヘリ基地病院と情報交換や、訓練への参加を通じた交流を行っている。那須赤十字病院としても栃木県 2 機目となるドクターヘリの導入について必要性を感じている。

○新型コロナウイルスについて

栃木県内の感染者にかかる受入医療機関の振り分け状況や、ドライブスルー検査、最近の感染者の状況、また栃木県による妊婦を対象とした検査の実施等について解説頂いた。

5 その他

(事務連絡)

(1) 共生ビジョン懇談会の開催回数について

・本年度は懇談会委員の改選の年ですので、本来であれば5~6月頃に第1回懇談会を開催し、2回目を9月に開催するべきところでしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を勘案し、5~6月頃の開催を見送り、今回9月の1回の開催のみとさせていただきます。来年度も同様に9月頃に1回の開催とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(2) 共生ビジョン懇談会の会議録・改定後共生ビジョンの送付について

・本懇談会の会議録は後日郵送いたしますので、ご確認をお願いいたします。
・本懇談会にてご意見をいただきました「共生ビジョン(案)」については、10月26日に開催予定の推進協議会において、今年度の改定を行い、改めて郵送いたします。昨年度作成いたしましたバインダーに綴じ込めるように穴空けした状態でお送りいたしますので、改定前のものとの差し替えをお願いいたします。

以上